

明海大学大学院応用言語学研究科主催
浦安市教育委員会後援
第18回応用言語学セミナー

日時：2015年12月5日(土)
場所：明海大学浦安キャンパス
講義棟1階 2102教室

言語・文化 衝突と邂逅
——多文化共生社会を生きる——

今日ほど、「多文化共生」が重要なキーワードとなった時代はないかもしれない。

今や、交通や通信手段が高度に発達し、整備された航空網によって比較的短時間で地球を一周することもでき、また地球の正反対側で起こった出来事もインターネットで瞬時に知ることができるようになった。

では、機械的に高度に発達した社会に住む、私たち人間(人類)は、多くの人々が本当に幸せを実感できるようになったのかと言えば、どうもそうではなさそうである。馴染みのない言語や文化に接して、反発したり、衝突したりすることが、むしろ増加したのではないかと思うくらい、世界では大小さまざまな問題が生じている。大きなところでは、例えば、過激なイスラム教原理主義による自爆攻撃や日本と近隣諸国との国境や歴史認識をめぐる対立激化から、対立する民族や民衆に対するヘイトスピーチなど枚挙にいとまがない。今、この時点で、ある程度の答えを見いださなければ、私たちは永遠に多文化共生社会を生きることが難しくなってしまうような錯覚をも覚える。

しかし、「衝突」とは言い換えれば「邂逅」であり、私たちは、調和を意図することによって、その邂逅を豊かなものにできるはずだ。

そうした危機感と希望をもとに、日本語教育と日本文化、中国文化および中国の都市と農村、欧米と旧植民地等の言語・文化の衝突と邂逅をテーマに、今年度の応用言語学セミナーを企画した。多文化共生社会をどのように生きるか、ともに考え、未来を切り開く場にしたい。

◆ ご挨拶

応用言語学セミナーは、今年で第18回目を迎えます。第1回を本研究科の設置された1998年に開いておりますので、本研究科が開設から18年目を迎えたことともなります。

このセミナーは本学の大学院応用言語学研究科を広く、多くの人に知ってもらうために始めた活動です。開催に当たり、講演者には本研究科の教員だけではなく、毎回のテーマに合わせて外部講師にもお願いいたしております。また、本研究科の学生も毎回準備段階から参加し、当日は教員と連携して会場運営を行っています。

回を重ねるごとに、広い領域の方々から期待を寄せられるようになり、その回が終わるごとに、次回に向けての準備を始めることが常となり、わが研究科の年間行事の中でも大きなウエイトを占める活動となっています。

本学の応用言語学研究科には、1「言語教育」、2「言語行動」、3「言語文化」の3つのコースが置かれています。

これまでの近3回の開催を見ますと、第15回(2012年)「語りの世界」、第16回(2013年)「現代における“ことば教育”はいかにあるべきか」、そして昨年(2014年)の第17回「人と人をつなぐコミュニケーション」と続けてきています。

前回までの開催テーマを鑑みて、今回は「言語文化」の領域でテーマを取り開催することにしました。

今回のテーマですが、「言語・文化 衝突と邂逅—多文化共生社会を生きる—」といたしました。この現代日本社会にとって切実なテーマについて、明海大学の外国語学部、そして大学院応用言語学研究科から、発信していきたいと考えております。

発表から活発な議論にもつなげていきたいと思っておりますので、多くの方々のご参加を期待しております。

明海大学大学院応用言語学研究科長・外国語学部長
遊佐 昇

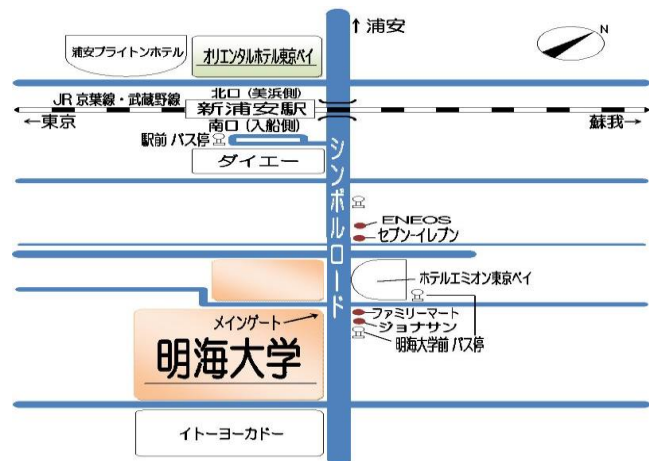
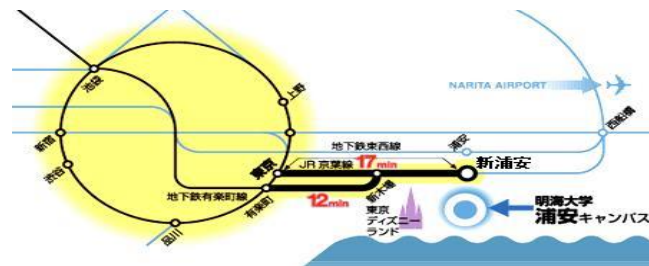
—明海大学応用言語学セミナーのホームページ—

明海大学 第18回応用言語学セミナー 検索

Meikai Applied Linguistics Seminar (MALS)

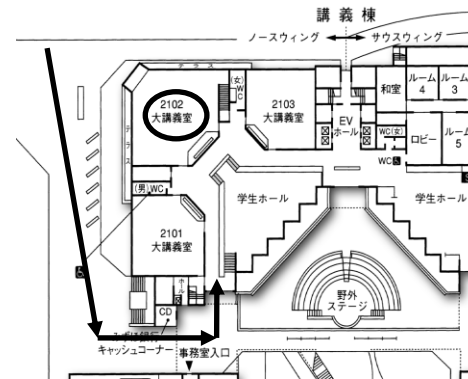
◆ 交通手段

東京駅よりJR京葉線・武蔵野線快速で約17分、新浦安駅下車。南口(入船側、ダイエー方向)からシンボルロードを通って徒歩約10分。または駅南口ロータリーのバス停から③⑩⑬⑯番系統のいずれかのバスで約5分「明海大学前」にて下車。運賃150円。



◆ キャンパス略図

会場：講義棟1階 2102教室





プログラム

2015年12月5日(土)

講演会場 講義棟 1階 2102 教室

9:30 受付開始

10:00 開会

10:00 - 10:05 挨拶

遊佐昇(明海大学大学院応用言語学専攻科長・外国語学部長)

前半司会: 佐々木文彦(明海大学外国語学部教授)

10:05 - 10:55

柳澤好昭(明海大学外国語学部教授)

「在日日系ブラジル人と先住民の言語生活から今後を考える」

外国人集住地域の浜松市、太田市に日本語教育の立場から関わり、戸惑ったこと、驚いたこと、感心したことなど、様々な事例を得た。両市でどのような人が社会生活を営んでいるのか?どのような言語接触があるのか?どのような情報を授受しているのか?どのような日本語学習が要るのか?日本語教育研究からできる貢献は何か?について述べる。

11:00 - 11:50

齋藤理一郎(群馬県立太田フレックス高等学校教諭)

「発表活動での多文化交流を通じて多文化理解を促進する授業実践—多文化共生社会を目指して—」

英語を母語としない外国籍生徒と日本人生徒が共存する定時制高校で英語の授業を担当している。様々な文化的背景や価値観を持つ生徒たちが、「自分とは違う他者がいる」と意

識する多文化理解の姿勢を育てるために、授業では発表活動に取り組んでいる。授業での多文化交流経験を「多文化共生社会」に活かせる生徒を育てたい。

11:50 - 12:50 <昼休み>

12:50 - 13:40

千野拓政(早稲田大学文学学術院教授)

「アジアの若者は今……—村上春樹とサブカルチャーの流行にみる若者の心—」

若者の文学離れが言われて久しい。だが、村上春樹やライトノベル、マンガ・アニメなどのサブカルチャーは国境を越えて若者に支持されている。若い世代のテキストの読み方、作品に求めるものが変化しているらしいのだ。その背景には彼らと文学、ひいては社会との関わりの変化がある。アジアに広がる共通の文化現象がわたしたちに何を語りかけているのか、考えてみたい。

13:45 - 14:35

高田誠(明海大学外国語学部准教授)

「中国における都市と農村の変容—システム転換による労働移動と地域変動—」

改革開放による経済システムの転換は、それまで固定化されていた“人”の移動を誘発し、その動きは徐々に地域を超えて広がっていった。“人”の移動は従来の農村・都市関係に影響を及ぼし、中国社会の地域変動を引き起こしていく。グローバル経済へのシステム転換が労働移動を通して地域社会の変化をもたらしている点に注目する。

後半司会: 岩下哲典(明海大学ホスピタリティ・ツーリズム学部教授)

14:40 - 15:30

池上大祐(琉球大学法文学部准教授)

「『境界』としてのグアム—米軍基地・アメリカ市民権・先住チャモロの自決権をめぐる—」

グアムは、「未編入領域」という法的に「あいまい」な位置にあるがゆえにアメリカ外交史・内政史双方から看過されがちであった。本報告は、その「あいまい」さを「境界」という概念で捉え、1940年代後半にグアムの先住チャモロが希求してきた「アメリカ市民権」の意味、1960年後半から高まるチャモロ・ナショナリズムの諸相を、「基地の帝国」アメリカの諸政策に照らし合わせながら明らかにしていく。

15:35 - 16:25

嶋田珠巳(明海大学外国語学部准教授)

「アイルランドにみる言語の衝突と邂逅」

アイルランドは土着のアイルランド語が英語にかわる言語交替を経験した。アイルランドにとって英語との出会いは民族の言語を失う悲劇でしかなかったのか。結果として生まれたことばはどのようなものであるか。アイルランド人のアイデンティティはどのように存在しているのか。世界の至るところで英語が生活圏に入った現在の、グローバル化と言語のありかたの多様性を視野に、人々の出会いと言語接触について、アイルランドを舞台として考えてみたい。

16:30 - 17:30

総合討論「言語・文化 衝突と邂逅—多文化共生社会を生きる—」

司会: 岩下哲典

閉会 挨拶 大津由紀雄(明海大学副学長)

18:00 - 20:00 <懇親会>

ホテルエミオン東京ベイ 22階 Kai

参加ご希望の方は、お手数ですが11月27日(金)までに電子メール、FAX または葉書で、以下の①~③をお知らせ下さい。

①お名前 ②ご連絡先 ③懇親会参加の有・無

お問い合わせ: 明海大学応用言語学セミナー運営委員会

FAX: 047-350-5504

Email: gsalseminar@meikai.ac.jp